

平成二〇年（二〇〇八年）三月一日 三月二日（みずの日）天草での隠れキリシタンの方々の慰霊祭に

神から人へ、人から神へ。

多くの人の悲しみ、苦しみ、全てを禊ぎ、祓い清めて、
海に沈みし多くの人の、御魂を清め、天へと帰せよ。
迷える御魂も、さまよえるも、

今ようやく、嘆きを解きて、

天へと帰り、安らかなれと、

人の祈りの 言霊に、

道を示され、いざなわれ、神の元へと 導かれむ。

永き嘆きの 苦難の時を、

神のことに支えられ、

神のことに守られて、

神のことはを最期まで、

己の生の標となして、

短き天寿を全うし、

現世に残す 悔いもなし。

この世を神と共に生き、

神の慈愛をこの世に映し、

栄えある未来の 訪れのため、

我が身を賭して 捧げし者たち。
今こそ、神の 元へと帰れよ。

安らかな海、穏やかな空、

神の言祝ぐ 天草よ。

尊き命の さきわえる地よ。

多くの犠牲も 今ここに、

御魂を鎮めて 休まれよ。

人の祈りは 常永久に

途切れることなく この地を清めむ。

天の祈りと一つに和して

平和の祈りと 高まれよ。

流せる涙も、血も汗も、

祈りのことばに 清まれよ。

神の求める 命を生きて、

後に生まれる命に継がむ、神の教えと 栄光を。

平らかなれよ。安らかなれ。

神の願いの 宿れる地なれ。

神の祝える 聖なる地なれ。

神の慈愛の 栄える地なれ。